

第53回桐華祭「笑顔満祭」

笑顔届けた2日間

天候に恵まれ7千人超が来場

ライデザ新聞

桐華祭特集

<発行>

十文字学園
女子大学
ライター
デザイン部

1日目 オープニング セレモニー

53回目となる十文字学園女子大学の学園祭「桐華祭」が10月26日、27日の2日間にわたり開催された。「笑顔満祭」をテーマに掲げた今年の桐華祭は、天候が心配されたが、両日とも晴天に恵まれ2日間の来場者は約7300人(実行員会調べ、速報値)を数え、終日学内は大勢の人で盛り上がりを見せた。文化展示団体、飲食出店団体の学生も楽しんだ様子で、テーマ通り「笑顔満載」の祭典となった。2日間の様子を振り返った。



学内は来場者であふれた

10月26日、前日の大雨とは打って変わって晴天の中スタートした第53回桐華祭。オープニングセレモニーは吹奏楽部の華々しい演奏から幕を開けた。

桐華祭実行委員長

立花彩香さん(メデイアコミュニケーション学科3年)は挨拶で、「今年のテーマである笑顔満祭は、昨年よりもさらに笑顔溢れる桐華祭になるようにという願いを込めました。学生たちの輝く笑顔と頑張る姿が来場の皆さまの元気の源になればいいなと思っています」と桐華祭に対する熱い思いを込めた。

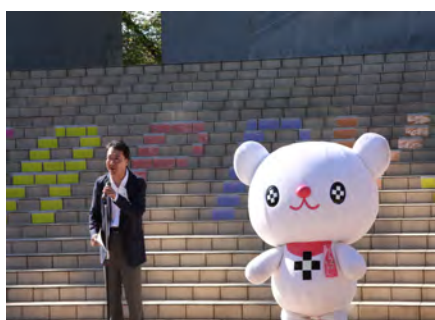
学長に代わり副学長の安達一寿副学長は来場者に向けて、「ぜひ楽しんで、今までたくさんの方の活躍にご覧ください」と



開会あいさつをする立花実行委員長

学生たちの頑張りを労った。続いてミュージカル部は、桐華祭で演じる演目「ME AND MY GIRL」の宣伝をミュージカル風に行った。J和太鼓部の迫力ある演奏はこれからのステージへの気合いを感じる事ができた。ダンス部は元気のあるキレイのいいダンスで会場を一気に盛り上げた。

テーマの「笑顔満祭」を文字通り表現したオープニングセレモニーとなった。(唐津奈々子、蛭川美佳子)



本学のマスクットキャラクター、プラスちゃんとともにあいさつする安達副学長



ダンス部



J和太鼓部



ミュージカル部



吹奏楽部

飲食出店18団体

伝統

新規

桐華祭の風物詩でもある学生による飲食出店。天候にも恵まれ出店前は大勢の人でにぎわいをみせていた。

「伝説のペンネ」「食栄みちこの洋菓子店」「武蔵野会ちゃんこ」といった定番の食べ物に加え、「里芋いもち」「もろこし饅頭・かりんとう」など新たにお目見えした食べ物も登場、伝統と新規の食べ物で桐華祭に彩を添えた。



裏面にライデザメンバーの食レポートを掲載しています。

ライデザイナー1年生の食レポ

ライター

デザイン部1年生は今回の桐華祭が初めての参加でした。そこで飲食団体が販売していた食べ物の中から「美味しかった」と独断で選んだ4つの食べ物を紹介したいと思います。

(植村萌絵、富樫奈々、中西麻樹)

スープ餃子



1つ目はスノーボード部が販売している「スープ餃子」です。見た目はとてもシンプルですが、餃子の皮がもちもちで中の具材はぎゅっしり詰まっています。噛むと中から肉汁が出てきてスープと合わさり、美味しさが口

の中に広がりました。

焼きそば



2つ目は学友会代表委員会が販売している「焼きそば」です。とてもしっかりとした味付けで、キャベツやモヤシなど食感の良い野菜が加わることで食べ応えがありました。

里芋いももち



3つ目は竹嶋ゼミが販売している「里芋いももち

ち」です。このいもちは新産の里芋を使用しています。表面はカリカリ、中はもちもちトロトロで、みたらしのしょっぱさと里芋の甘みがよく合い、美味しかったです。

ちゃんこ



4つ目は武蔵野会が販売している「ちゃんこ」です。スープの味は塩と味噌があり、私達は塩味を食べました。野菜、鶏肉がたくさん入っていました。さっぱりした塩味で、お腹がいっぱいでもペロリと食べることができました。

この他にもたくさん食品が販売されていました。ほぼ全種類といっていい14品を堪能。みなさんのお気に入りがありましたか。

ボラセンにぎわう

桐華祭への参加が一年に続き2回目というボランティアセンターに所属する学生スタッフのリーダー、高橋奈々さん(人間福祉学科3年)に話を聞いた。

一昨年は地域の方々にも協力してもらったそう。学生だけで運営するのは今回が初めてとのこと。学生メンバーは学科、学年がバラバラなため日程調整に苦労したそう。何とか役割分担をして事前準備を計画的に進めたこともあって、設営もスムーズに完了したという。

今年の来場者の様子について聞くと、「前回に



比べてだいぶ盛り上がりしてきました！」と嬉しそう。会場内の装飾はカラフルで1つ1つとても丁寧に作られていて、足を踏み入れた瞬間からとても気分が上がった。場内にはあやとりや、

輪投げなど6つのゲームをするブースがある。ゲームをクリアするとスタンプがもらえる。全制覇すると折り紙で丁寧に作られたメダルがもらえる。装飾や小物の丁寧さに学生メンバーの温かい心遣いを感じた。

場内は親子連れや学生でにぎわっていた。学生スタッフも気さくで話しやすいかった。高橋さんは、「これからもボランティアアセンターを一層盛り上げていきたい」と決意を語っていた。

(小野寺七海)

フリマ 格安



9号館1階、9106教室で開催されたフリーマーケット(実行委員会主催)にお邪魔しました。ぬいぐるみや食器、服など百点以上の物が販売されていました。値段は10

円から500円と、とても手に取りやすいものばかり。訪れていた方達は子供からお年寄りまで幅広く、それぞれ気に入った商品を選んでいました。売上金は全て日本赤十字社に寄付されるとのことでした。(富樫奈々)

小林ゼミの研究成果

食物栄養学科、小林ゼミは「物性応用班」「テイストビーフ班」「テイストドリリンク班」「物性基礎班」に分かれて展示を行った。テイストドリリンク班の食物栄養学科4



年馬被茜さんと浜岡さくらさんは「普段のゼミ活動では、三種類の飲み物の温度を変え、脳波と自律神経を測ってリラクゼーション効果があるかを研究しています」と話し、今回の桐華祭では、その研究成果をポスターにまとめ、展示をした。2号棟3階234教室は小林ゼミの研究結果が詰まった場所だった。(蛭川美佳子)

茶道部 野点



桐華祭を終えて

ゴミ回収やフリーマーケットの販売、来場者の見送りなどを担当した実行委員本部長局長の江川ほのかさん。期間中笑顔を絶やさない彼女でしたが、今年是一年生の人数が多かったのが大変だったとのこと。それでも後輩にも楽しんで活動してもらうためにと場を盛り上げて頑張っていました。

桐華祭について「地域の人々や学生同士の交流の場になれば良いと思います。私は屋台の食べ物で毎年楽しみなんです(笑)。みなさんにも楽しんで欲しいです」と話していました。

とても元気でハツラツした彼女のような存在があつてこそ今年の桐華祭はみんな「笑顔満載」で過ごせたのではないでしょうか。(小野寺七海)